

## 日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

(2017年10月〔往航〕速報値)

(公財) 日本海事センター 企画研究部

\* 文中の％は、寄与度とシェア以外で特に記載がない場合は、対前年同期比を表します。

### I. 往航（アジア 18 ヶ国・地域→米国）の荷動き

(1) 2017年10月のアジア（18 ヶ国・地域）から米国へのコンテナ荷動き量は、前年比 8 ヶ月連続の増加となる 1.8%増の 142.2 万 TEU。単月ベースでは 2017年4月から10月まで 7 ヶ月連続で過去最高を更新。また、1-10月累計では前年同期比 5.5%増の 1,365.2 万 TEU と年計で過去最高を更新した昨年の実績を上回っている。

\*6月の荷動き量が先月発表時の 130.9 万 TEU から 136.2 万 TEU に上方修正された結果、伸び率が 1.7%減から 2.3%増に変更。そのため、中国、台湾、ASEAN、南アジアなどの表記が先月の発表資料と異なっています。

(2) 国別では、自動車関連品目が減少となった日本（11.5%減）及び韓国（8.9%減）、住宅関連品目が減少となった台湾（0.9%減）などが前年比減少。一方、住宅関連品目が好調な中国（0.8%増）、上位 3 品目が好調なベトナム（15.6%増）やインド（17.3%増）などが前年比増加。地域別では、ASEAN（10.7%増）、南アジア（13.6%増）ともに増加。

(3) 日本は、2 ヶ月連続の減少となる 11.5%減の 4.8 万 TEU。品目別の 1 位（2016年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様）の「自動車部品」（18.5%減）が 2 ヶ月連続の減少、3 位の「タイヤ及びチューブ」（12.8%減）が 3 ヶ月連続の減少、5 位の「テレビ、ビデオ等の映像・音響製品」（6.9%減）が 5 ヶ月連続の減少。

(4) 中国は、8 ヶ月連続の増加となる 0.8%増の 93.0 万 TEU。1 位の「家具及び家財道具」（7.8%増）及び 5 位の「床材、ブラインド等のプラスチック製品」（5.8%増）が 8 ヶ月連続の増加、4 位の「おもちゃ」（0.02%増）が 2 ヶ月ぶりの増加。香港は 5 ヶ月連続の減少となる 1.1%減の 2.8 万 TEU。

(5) 韓国は、3 ヶ月ぶりの減少となる 8.9%減の 6.2 万 TEU。1 位の「自動車部品」（24.4%減）が 11 ヶ月連続の減少、2 位の「一般電気機器」（13.5%減）が 2 ヶ月連続の減少、3 位の「タイヤ及びチューブ」（13.5%減）が 5 ヶ月連続の減少。

(6) 台湾は、2 ヶ月連続の微減となる 0.9%減の 4.9 万 TEU。3 位の「家具及び家財道具」（2.6%減）が 2 ヶ月ぶりの減少、4 位の「床材、ブラインド等のプラスチック製品」（2.4%減）が 4 ヶ月ぶりの減少、5 位の「鋼材及びその製品」（9.1%減）が 2 ヶ月連続の減少。

(7) ASEAN はフィリピン（15.1%減）を除くすべての国が増加になったことなどにより、全体では 18 ヶ月連続の増加となる 10.7%増の 22.9 万 TEU。ベトナムは 19 ヶ月連続の増加となる 15.6%増の 9.7 万 TEU。1 位の「家具及び家財道具」（22.7%増）が 19 ヶ月連続の増加、2 位の「繊維及びその製品」（8.2%増）が 2 ヶ月連続の増加、3 位の「履物及び附属品」（7.1%増）が 4 ヶ月連続の増加。

(8) 南アジアはスリランカ (27.0%増)、インド (17.3%増) が大幅な増加となったことなどにより、全体では7ヶ月連続の増加となる13.6%増の7.6万TEU。インドは7ヶ月連続の増加となる17.3%増の5.8万TEU。1位の「繊維及びその製品」(8.8%増)が2ヶ月ぶりの増加、2位の「家具及び家財道具」(33.2%増)が13ヶ月連続の増加、3位の「セメント、石、砂、粘土等」(6.0%増)が6ヶ月連続の増加、4位の「文房具及び骨董品」(19.2%増)が3ヶ月連続の増加。

(9) 品目別では、「家具及び家財道具」(寄与度1.3%増)、「車両機器及び部品」(同0.4%増)、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」(同0.2%増)などが増加に寄与。

(10) 船社別では、1位(2016年(確定値)年計ベースの船社別順位、以下同様)のCMA-CGM + APL/NOLが13ヶ月連続の増加となる22.1%増の23.2万TEU(1-10月累計のシェア:14.74%)、2位のEVERGREENは3ヶ月連続の減少となる11.6%減の14.1万TEU(同:10.45%)、3位のCOSCONは8ヶ月連続の増加となる4.1%増の15.8万TEU(注、同:10.15%)。

邦船社ではKLINEが3ヶ月ぶりの減少となる17.1%減の7.0万TEU(1-10月累計のシェア:5.77%)、NYKが15ヶ月連続の増加となる0.5%増の7.0万TEU(同:5.15%)、MOLは13ヶ月連続の増加となる4.4%増の7.2万TEU(同:5.11%)。ちなみに邦船3社の2017年1-10月の累計シェアは16.03%。

(11) 中国積を船社別で見ると、1位(2016年(確定値)年計ベースの船社別順位、以下同様)のCMA-CGM + APL/NOLが8ヶ月連続の増加となる29.6%増の16.4万TEU(1-10月累計のシェア:15.40%)、2位のCOSCONも8ヶ月連続の増加となる0.4%増の12.7万TEU(注、同:12.64%)、3位のEVERGREENは3ヶ月連続の減少となる12.7%減の10.1万TEU(同:11.20%)。

邦船社ではKLINEが5ヶ月連続の減少となる20.3%減の4.3万TEU(1-10月累計のシェア:5.75%)、NYKが8ヶ月ぶりの減少となる4.1%減の3.2万TEU(同:3.76%)、MOLは8ヶ月連続の増加となる0.9%増の2.9万TEU(同:3.31%)。ちなみに邦船3社の2017年1-10月の累計シェアは12.82%。

(注) 対前年同月比における前年値については、COSCONはCOSCOとCHINA SHIPPING、CMA-CGM + APL/NOLはCMA-CGMとAPL/NOLの合計値。

表-1 2017年10月:積国・地域別荷動き

国・地域	往 航				
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	1-10月の 累計(TEU)	前年同期比 (%)
<b>18ヶ国・地域 合計</b>	<b>1,421,820</b>	<b>1.8</b>	<b>100.0</b>	<b>13,652,488</b>	<b>5.5</b>
日 本	48,116	▲11.5	3.4	532,716	▲0.2
韓 国	62,007	▲8.9	4.4	651,909	▲2.3
台 湾	48,510	▲0.9	3.4	518,769	0.1
<b>中国+香港 計</b>	<b>957,995</b>	<b>0.8</b>	<b>67.4</b>	<b>9,112,508</b>	<b>5.5</b>
中 国	929,580	0.8	65.4	8,861,487	5.8
香 港	28,415	▲1.1	2.0	251,022	▲3.6
マカオ	30	▲5.1	0.0	239	▲14.3
<b>ASEAN 計</b>	<b>228,794</b>	<b>10.7</b>	<b>16.1</b>	<b>2,097,611</b>	<b>10.3</b>
シンガポール	8,615	4.1	0.6	76,581	▲8.8
フィリピン	9,466	▲15.1	0.7	104,753	▲4.3
マレーシア	24,394	0.8	1.7	238,146	0.6
インドネシア	31,860	2.3	2.2	306,206	1.9
タ イ	51,180	18.8	3.6	440,367	16.3
ベトナム	97,407	15.6	6.9	880,905	17.5
カンボジア	5,092	19.8	0.4	45,297	13.1
ミャンマー	780	103.6	0.1	5,356	53.0
<b>南アジア 計</b>	<b>76,368</b>	<b>13.6</b>	<b>5.4</b>	<b>738,735</b>	<b>8.4</b>
スリランカ	4,349	27.0	0.3	38,495	9.4
バングラデシュ	6,721	▲1.2	0.5	78,299	▲3.1
パキスタン	7,523	▲3.2	0.5	82,803	3.8
インド	57,775	17.3	4.1	539,138	10.9

(注) 集計対象は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEANのうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの8ヶ国、南アジアではインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの4ヶ国、合計18ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、後に若干の修正が加わる場合がある。

## II. 品目別荷動き

(1) 往航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している住宅関連3品目（「家具及び家財道具」、「建築用具及びその関連品」、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」）の合計荷動き量は、8ヶ月連続の増加となる8.0%増の28.9万TEUと好調を維持。

品目別でみると、「家具及び家財道具」は8ヶ月連続の増加となる10.5%増の19.5万TEU、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」も8ヶ月連続の増加となる4.4%増の5.8万TEU、「建築用具及びその関連品」は4ヶ月連続の増加となる1.3%増の3.6万TEU。

(2) 「繊維及びその製品」は3ヶ月ぶりの減少となる3.4%減の15.8万TEU。

(3) 「一般電気機器」は8ヶ月ぶりの減少となる2.6%減の9.9万TEU、「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」は4ヶ月ぶりの減少となる5.1%減の3.9万TEU。

(4) 「自動車部品」は2ヶ月連続の減少となる5.9%減の4.8万TEU、「タイヤ及びチューブ」は4ヶ月連続の増加となる5.5%増の3.8万TEU。

(5) ちなみにクリスマス商戦向け品目である「おもちゃ」は0.7%増の7.9万TEU、「クリスマス用装飾品及び造花等」は3.5%増の3.3万TEU。

表-2 往航:2017年10月の品目別荷動き(上位10品目)

品目名	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	1-10月 前年同期比(%)	シェア (%)
1. 家具及び家財道具	194,795	10.5	1.3	11.1	13.7
2. 繊維及びその製品	158,177	▲3.4	▲0.4	0.1	11.1
3. 一般電気機器	98,877	▲2.6	▲0.2	6.9	7.0
4. おもちゃ	78,880	0.7	0.0	1.7	5.5
5. 床材・ブラインド等のプラスチック製品	58,056	4.4	0.2	8.2	4.1
6. 自動車部品	48,163	▲5.9	▲0.2	▲0.7	3.4
7. テレビ、ビデオ等の映像・音響製品	39,416	▲5.1	▲0.2	3.6	2.8
8. 履物及び附属品	38,464	▲0.2	0.0	▲0.5	2.7
9. タイヤ及びチューブ	38,402	5.5	0.1	0.3	2.7
10. 車両機器及び部品	37,033	17.7	0.4	13.7	2.6

### Ⅲ. 国別品目別荷動き動向

表-3 往航:2017年10月の国別品目別荷動き(上位5品目)

	順位	品目名	TEU	前年比(%)	シェア(%)
日本積	1位	自動車部品	12,049	▲18.5	25.0
	2位	車両機器及び部品	6,633	19.9	13.8
	3位	タイヤ及びチューブ	3,595	▲12.8	7.5
	4位	建設機械	3,072	▲8.8	6.4
	5位	テレビ、ビデオ等の映像・音響製品	2,220	▲6.9	4.6
中国積	順位	品目名	TEU	前年比(%)	シェア(%)
	1位	家具及び家財道具	131,632	7.8	14.2
	2位	繊維及びその製品	95,275	▲3.8	10.2
	3位	一般電気機器	66,972	▲6.5	7.2
	4位	おもちゃ	71,712	0.0	7.7
5位	床材・ブラインド等のプラスチック製品	47,185	5.8	5.1	
韓国積	順位	品目名	TEU	前年比(%)	シェア(%)
	1位	自動車部品	8,260	▲24.4	13.3
	2位	一般電気機器	8,077	▲13.5	13.0
	3位	タイヤ及びチューブ	4,620	▲13.5	7.5
	4位	車両機器及び部品	3,403	6.8	5.5
5位	レジン等の合成樹脂	2,652	14.4	4.3	
台湾積	順位	品目名	TEU	前年比(%)	シェア(%)
	1位	建築用具及び関連品	6,128	2.9	12.6
	2位	自動車部品	5,713	5.5	11.8
	3位	家具及び家財道具	3,502	▲2.6	7.2
	4位	床材・ブラインド等のプラスチック製品	3,050	▲2.4	6.3
5位	鋼材及びその製品	1,825	▲9.1	3.8	
ベトナム積	順位	品目名	TEU	前年比(%)	シェア(%)
	1位	家具及び家財道具	37,323	22.7	38.3
	2位	繊維及びその製品	16,739	8.2	17.2
	3位	履物及び附属品	7,492	7.1	7.7
	4位	魚及びその調整品	1,766	▲34.7	1.8
5位	コンピュータ及び半導体	4,105	96.4	4.2	
インド積	順位	品目名	TEU	前年比(%)	シェア(%)
	1位	繊維及びその製品	11,590	8.8	20.1
	2位	家具及び家財道具	3,324	33.2	5.8
	3位	セメント、石、砂、粘土等	2,184	6.0	3.8
	4位	文房具及び骨董品	2,835	19.2	4.9
5位	鋼材及びその製品	2,928	33.1	5.1	

注:2016年における各国の順位による

#### IV. 船社別荷動き動向（シェア：％）

表－4 往航：船社別荷動きシェア（％）

順位	往航船社名	2014年	2015年	2016年	2017年1-10月	最近の推移など
1	CMA-CGM + APL/NOL	13.41	13.52	13.54	14.74	13ヶ月連続の増加
	(CMA-CGM)	6.41	7.73	7.45	7.90	
	(APL/NOL)	7.00	5.79	6.09	6.84	
2	EVERGREEN	10.23	10.42	10.78	10.45	3ヶ月連続の減少
3	COSCON	10.95	11.21	10.13	10.15	8ヶ月連続の増加
	(COSCO)	6.58	6.64	8.45	10.15	
	(CHINA SHIPPING)	4.38	4.57	1.68	0.00	
4	MAERSK	10.03	8.79	9.35	9.47	4ヶ月ぶりの減少
5	MSC	6.53	6.74	7.60	8.04	13ヶ月ぶりの減少
6	KLINE	5.57	5.77	5.92	5.77	3ヶ月ぶりの減少
7	OOCL	4.72	4.72	5.25	6.20	8ヶ月連続で大幅な増加
8	YANG MING	5.01	5.21	5.15	5.17	8ヶ月ぶりの減少
9	NYK	4.57	4.61	4.74	5.15	15ヶ月連続の増加
10	HYUNDAI	5.23	4.50	4.67	5.50	15ヶ月ぶりの減少
11	MOL	4.59	4.50	4.58	5.11	13ヶ月連続の増加
12	HAPAG-LLOYD	4.42	4.12	4.43	4.53	4ヶ月連続の増加
	OTHERS	14.73	15.88	13.87	9.73	14ヶ月ぶりの増加
	TOTAL	100.00	100.00	100.00	100.00	

表－5 往航：中国積・船社別荷動きシェア（％）

#### 中国積

順位	往航船社名	2014年	2015年	2016年	2017年1-10月	最近の推移など
1	CMA-CGM + APL/NOL	12.78	13.37	13.67	15.40	8ヶ月連続の増加
	(CMA-CGM)	7.49	8.88	8.40	8.97	
	(APL/NOL)	5.28	4.49	5.28	6.44	
2	COSCON	14.38	14.63	13.02	12.64	8ヶ月連続の増加
	(COSCO)	8.40	8.43	10.76	12.64	
	(CHINA SHIPPING)	5.98	6.20	2.26	0.00	
3	EVERGREEN	10.54	10.89	11.46	11.20	3ヶ月連続の減少
4	MAERSK	9.32	8.24	9.10	9.07	4ヶ月ぶりの減少
5	MSC	7.54	6.99	7.91	8.01	8ヶ月ぶりの減少
6	KLINE	5.65	5.96	6.09	5.75	5ヶ月連続の減少
7	YANG MING	5.58	5.84	5.72	5.59	8ヶ月ぶりの減少
8	OOCL	4.03	4.07	4.63	5.91	8ヶ月連続で大幅な増加
9	HAPAG-LLOYD	3.65	3.18	3.58	3.81	19ヶ月連続の増加
10	HYUNDAI	4.34	3.76	3.58	4.35	13ヶ月ぶりの減少
11	NYK	3.33	3.33	3.42	3.76	8ヶ月ぶりの減少
12	MOL	3.29	2.96	2.84	3.31	8ヶ月連続の増加
	OTHERS	15.58	16.75	14.96	11.20	14ヶ月ぶりの増加
	TOTAL	100.00	100.00	100.00	100.00	

\* 2014-2016年のCOSCONの数値はCOSCOとCHINA SHIPPINGとの合計値(シェア)

\* 2014-2017年のCMA-CGM + APL/NOLの数値は両社の合計値(シェア)

\* 単位は％。順位は2016年を基準とし、2017年は暫定値。

## V. コンテナ運賃の動向

表-6 往航:コンテナ運賃の推移(2016年/2017年対比)

(1)EASTBOUND		(Drewry:Container Freight Rate Insight)												2017年11月6日		
積地	向け地		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
Shanghai (China)	Los Angeles (U.S.A)	2016年	20ft	1,330	1,220	790	780	870	870	1,270	1,180	1,590	1,960	1,530	1,470	
			40ft	1,690	1,550	1,020	980	1,080	1,090	1,590	1,520	1,970	2,370	1,930	1,810	
		2017年	20ft	1,830	1,820	1,320	1,350	1,380	1,150	1,190	1,500	1,400	1,240			
			40ft	2,300	2,270	1,650	1,660	1,690	1,460	1,520	1,910	1,790	1,600			
		前年比	20ft	37.6%	49.2%	67.1%	73.1%	58.6%	32.2%	-6.3%	27.1%	-11.9%	-36.7%			
			40ft	36.1%	46.5%	61.8%	69.4%	56.5%	33.9%	-4.4%	25.7%	-9.1%	-32.5%			
Shanghai (China)	New York (U.S.A)	2016年	20ft	2,140	1,990	1,480	1,490	1,490	1,440	1,730	1,700	2,170	2,380	2,180	2,530	
			40ft	2,710	2,510	1,950	1,910	1,880	1,820	2,140	2,110	2,690	2,940	2,760	3,070	
		2017年	20ft	2,840	2,660	2,380	2,240	2,180	1,920	1,990	2,290	2,020	1,670			
			40ft	3,570	3,420	3,000	2,770	2,720	2,420	2,520	2,910	2,500	2,150			
		前年比	20ft	32.7%	33.7%	60.8%	50.3%	46.3%	33.3%	15.0%	34.7%	-6.9%	-29.8%			
			40ft	31.7%	36.3%	53.8%	45.0%	44.7%	33.0%	17.8%	37.9%	-7.1%	-26.9%			
Yokohama (Japan)	Los Angeles (U.S.A)	2016年	20ft	1,970	1,820	1,720	1,610	1,490	1,530	1,400	1,320	1,740	1,780	1,710	1,650	
			40ft	2,360	2,180	2,060	1,940	1,790	1,870	1,740	1,690	2,130	2,180	2,080	2,010	
		2017年	20ft	1,710	1,650	1,610	1,570	1,600	1,580	1,510	1,760	1,600	1,530			
			40ft	2,090	2,010	1,960	1,910	1,920	1,930	1,840	2,150	1,950	1,870			
		前年比	20ft	-13.2%	-9.3%	-6.4%	-2.5%	7.4%	3.3%	7.9%	33.3%	-8.0%	-14.0%			
			40ft	-11.4%	-7.8%	-4.9%	-1.5%	7.3%	3.2%	5.7%	27.2%	-8.5%	-14.2%			
Yokohama (Japan)	New York (U.S.A)	2016年	20ft	3,280	3,140	3,000	2,810	2,380	2,460	2,490	2,450	2,710	2,780	2,800	2,790	
			40ft	3,880	3,700	3,520	3,330	2,830	2,930	2,960	2,940	3,250	3,320	3,350	3,330	
		2017年	20ft	2,810	2,920	3,050	2,680	2,860	2,680	2,440	2,750	2,490	2,310			
			40ft	3,380	3,500	3,650	3,200	3,420	3,190	2,900	3,310	2,890	2,750			
		前年比	20ft	-14.3%	-7.0%	1.7%	-4.6%	20.2%	8.9%	-2.0%	12.2%	-8.1%	-16.9%			
			40ft	-12.9%	-5.4%	3.7%	-3.9%	20.8%	8.9%	-2.0%	12.6%	-11.1%	-17.2%			

参考資料

表-7 米国内地域別(西岸/東岸/ガルフ)荷動きの構成比の推移

米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2012年	69.9	28.0	2.1	65.3	32.0	2.7
2013年	69.6	28.3	2.1	64.8	32.4	2.8
2014年	68.4	29.3	2.3	62.7	34.0	3.3
2015年1月	60.1	36.2	3.7	53.0	42.0	5.0
2月	60.8	35.9	3.3	58.5	37.1	4.3
3月	65.6	32.0	2.5	56.9	38.6	4.5
4月	65.2	31.5	3.3	58.3	37.6	4.1
5月	65.1	31.9	3.0	60.1	35.5	4.5
6月	64.8	32.8	2.4	58.0	38.6	3.4
7月	64.0	33.3	2.7	60.9	35.3	3.8
8月	67.1	30.5	2.4	63.1	33.7	3.3
9月	64.9	32.5	2.7	57.9	38.1	4.0
10月	64.3	33.3	2.4	60.6	36.1	3.4
11月	66.8	30.8	2.3	59.0	37.5	3.5
12月	64.7	32.1	3.2	59.3	36.2	4.5
2016年1月	65.8	31.4	2.7	56.9	38.9	4.2
2月	64.1	33.0	2.9	59.8	35.9	4.3
3月	60.9	36.2	2.9	60.3	35.4	4.4
4月	65.6	31.5	2.9	60.7	35.4	4.0
5月	65.8	31.6	2.6	58.7	37.3	4.0
6月	64.9	31.9	3.2	58.9	36.6	4.5
7月	64.0	32.6	3.4	61.2	34.4	4.4
8月	63.8	32.9	3.3	60.1	35.5	4.4
9月	64.0	32.5	3.5	60.3	35.1	4.6
10月	63.6	32.6	3.8	60.9	34.5	4.5
11月	65.2	31.2	3.6	60.4	35.0	4.5
12月	64.7	31.8	3.5	58.8	35.6	5.6
2017年1月	63.5	33.0	3.5	52.3	41.0	6.6
2月	59.1	37.0	4.0	57.2	36.8	6.0
3月	64.7	31.5	3.8	59.4	34.7	5.9
4月	63.8	32.7	3.5	56.9	38.1	4.9
5月	64.8	32.0	3.2	57.6	37.8	4.6
6月	62.9	33.1	4.1	57.2	37.9	4.9
7月	63.3	32.6	4.1	56.3	38.4	5.3
8月	64.4	32.2	3.3	58.6	36.4	5.0
9月	60.4	34.8	4.9			
10月	59.8	35.7	4.5			

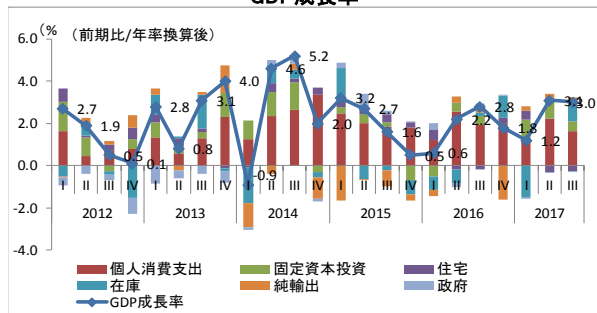


## (参考) 荷動きに関連する米国の経済指標・動向

### 2017年11月作成 米国経済:回復基調を維持

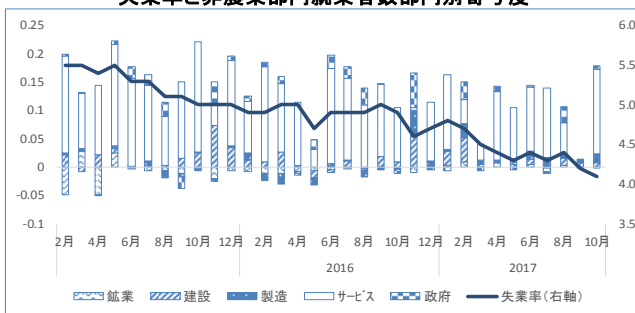
- ◆2017年第3四半期のGDP成長率(年率換算,速報値)は、3.0%増。住宅投資を除いてプラスに。
- ◆10月の失業率は4.1%で前月より0.1ポイント低下。非農業部門全体では26.1万人雇用増。鉱業部門を除き全体的に増加。
- ◆鉱工業生産指数及び設備稼働率は2016年3月を底に回復基調に転じ、2017年も回復基調を維持。
- ◆ガソリン価格及び先行指標であるWTI価格は2014年8月以降急落していたが、2016年3月を底にやや上昇基調にある。
- ◆2017年8月の住宅着工件数は、3か月連続のマイナスに。住宅販売は新築、中古ともにやや軟調。
- ◆17年小売売上高は回復基調を維持。
- ◆2014年10月開催の連邦公開市場委員会(FOMC)定例会で量的緩和(QE3)終了に。15年12月、16年12月に利上げを実施。17年6月に3度目の利上げを決定。次回FOMCは12月13-14日。

#### GDP成長率



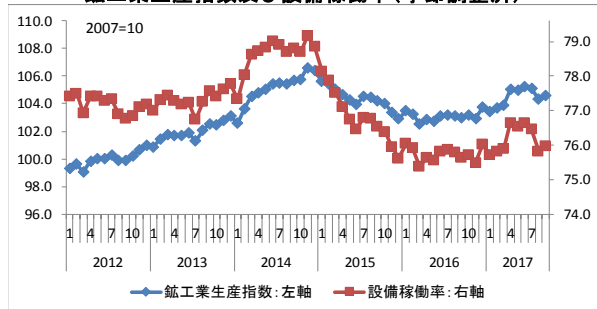
(米国商務省経済分析局)

#### 失業率と非農業部門就業者数部門別寄与度



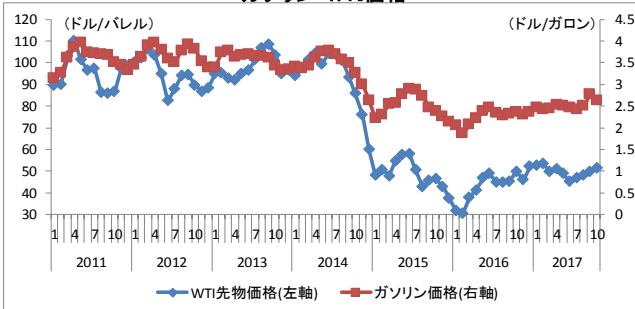
(米国労働省統計局)

#### 鉱工業生産指数及び設備稼働率(季節調整済)



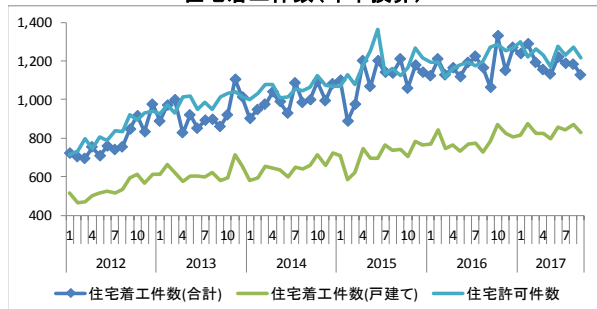
(米国連邦準備制度理事会)

#### ガソリン・WTI価格



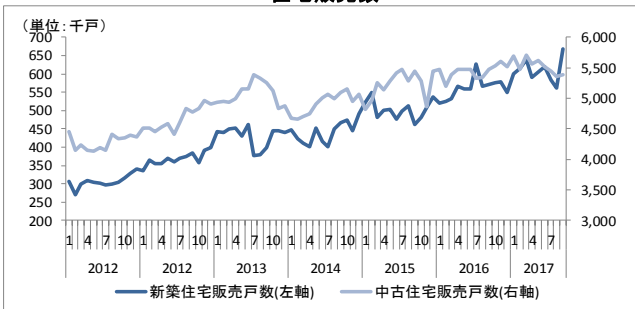
(米国エネルギー情報局)

#### 住宅着工件数(年率換算)



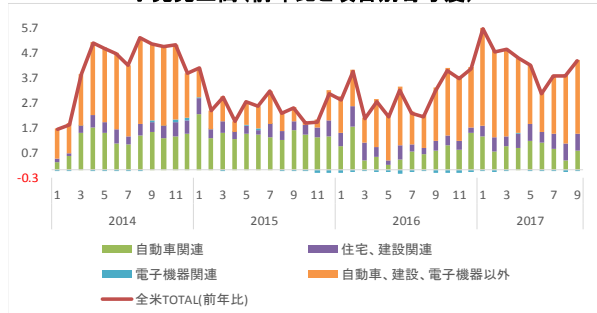
(米国商務省センサス局)

#### 住宅販売数



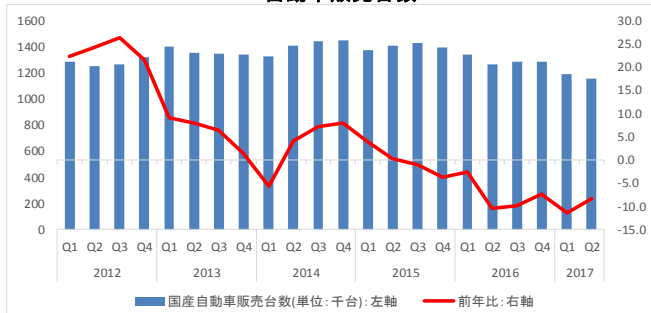
(米国商務省センサス局)

#### 小売売上高(前年比と項目別寄与度)



(米国商務省センサス局)

#### 自動車販売台数



(米国商務省経済統計局)